

## (株)苦東 第19回経営諮問委員会の概要

- 1 日時 平成27年5月20日(水) 13:00~14:20
- 2 場所 KKRホテル札幌3階「鳳凰の間」
- 3 出席者 9名全員出席
- 4 議題 (1) 委員長代理の選出  
(2) 概況説明
  - ・最近の主な動き
  - ・平成26年度経営概況について(平成26年度決算見込、株主還元(案))
  - ・平成27年度事業計画等について
  - ・「食関連産業の集積可能性に関する調査」の概要

### 5 議事要旨(委員からの主な意見)

□立地企業の業種の多様化は苦東地域の魅力が高まってきた証左。このため、企業のニーズに応じた多様な立地提案が出来るようになってきたと感じる。

□植物工場の立地は、食のバリューチェーンの中で食品加工メーカーの誘致に繋がっていく可能性があるなど、食クラスターの形成も期待させる。

□北海道ブランドの活用、リスク分散への対応、産業構造の潮目の変化などを踏まえ、今後の企業誘致方策を検討することも必要。

□苦東戦略においても、多くの業種・業態で課題となっている雇用問題の解決がポイント。雇用確保に向け思い切った政策が望まれる。

□企業は魅力のないところに立地しない。大株主など関係者とともに魅力づくりに向け思い切った策を検討すべき。

□苦東は水素社会のモデル地域の可能性も含め大きな優位性を有しており、スピード感を持って対処すれば一層集積が進む。

□苦東の優位性の積極的発信、立地企業へのサービス向上、北極海航路の可能性等をとらえ、北海道に貢献してほしい。

□苦東は日本全体にとって非常に貴重な土地であるため、利用にあたってはその目的や意味について適切に審査してほしい。

□ロシアと北海道との関係づくりは苦東にも影響を及ぼすとみられる。植物工場、メガソーラーの面的展開、ビッグデータ時代における日本のセンター的機能の展開、ハイエンドリピーターを引きつける産業ツーリズム、交通アクセスを活かした物流プロジェクトの展開などが戦略的に重要。

以上